

子供達とのふれあいを地域と共に
— 女性部活動を通して —

外 浦 漁 協 女 性 部
部 長 下 津 千 代 子

1. 地域の概要

外浦は、南郷町の南部に位置し、海岸線は日南海岸国定公園のほぼ中央にある。入り組んだリアス式海岸と小さな島々が浮かぶ海は、国内初の海中公園に指定され、外浦港からは水中観光船が出航している。

2. 漁業の概要

主幹漁業は、かつお・まぐろ漁業で、所属する外浦漁協は組合員 187 名、平成 16 年度の水揚高は 32 億 1 百万円となっている。

3. 研究グループの組織と運営

女性部は、昭和 32 年 7 月に設立され、現在、部員は 104 名。役員は、部長 1 名、副部長 2 名、監事 2 名、班長 12 名で構成している。定例会は、2 年に 1 回の総会、年 1 回の三役会、月 1 回の班長会を開催しており、その他、テーマを設けた夏の勉強会、健康に関する講演と料理教室を年 1 回、漁協と合同で実施している岸壁清掃を年 2 回、漁船海難遺児チャリティーバザー、幹部研修旅行を 2 年に 1 回実施している。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

昨今、外浦地区においても少子化が進み、外に出ても元気に遊ぶ子供の姿を見ることが少なくなった。「子供の日」を前にしても、地区内で鯉のぼりを見ることも少なくなり、競うように上がっていた時を懐かしく思っている。

女性連では、父親の留守がちな漁家にとって、母親である婦人の役割は大切であると、昭和 38 年に毎月 5 日を「子供をみつめる日」と定め、「子供をみつめる日の運動」を開始し、当女性部でもその一環として、県下の女性部同様に「子供の日」のある 5 月を中心に色々な行事を実施してきた。

私が部長を引き受けた平成 10 年までは、親子遠足で近くの浜辺まで歩いて行き、宝探しやゲームを行っていたが、限られた人達だけの参加となっており、物足りなさを感じていた。何か他に子供とふれあいながら、楽しい一日を過ごすことは出来ないものだろうかと思うようになった。

そこで、次年度の活動計画を決める三役会で「子供をみつめる日」の行事について、私の意見を聞いてもらい話し合いを行った。ミニバレー、ゲートボールと意見が出たが、経験がなくても誰でも出来て、大人から子供まで世代間で楽しめる単純なゲームということでランドゴルフに決定し、班長会に提案、了解を得て翌年から実施することにし

た。

5. 研究・実践活動状況及び成果

開催にあたっては、大勢の人に参加してもらえよう漁家の子供だけに限らず、班長を通じて子供のいる家庭にも声をかけ、地区の回覧板を利用し地域全体にも呼びかけを行った。その甲斐あってか、漁家に限らず地域の方も交えて、130名を超える参加者となった。

ゲームは、子供と大人がふれあえるよう混合のチームとし、参加される大人の方には、昔話をしながら楽しく交流してくれるようお願いした。また、プレー終了後は、女性部役員、漁協職員の皆さんに手伝ってもらい、焼肉、焼きそば等をして昼食までみんなで楽しく過ごした。

その後、このふれあいを通して、子供達は、イキイキとした顔で自分達から元気よく挨拶をしてくれるようになり、私が考えていた子供とのふれあいに確かな手応えを感じた。

平成13年、14年は、あいにく天候が悪く、室内レクリエーションとなった。平成14年は、子供達の参加は多かったが、大人が少なく、再度、防災無線で呼びかけたところ、参加者が増えてほっかりした。

ゲームをしていると、防災無線を聞いた近くの水中観光船の社長さんから思わぬお誘いを受けた。「海は、濁って魚は見えないが、船に乗ってトビの餌付けを楽しみながら、島巡りでも」と言って頂いたのである。子供達に話をしてみたところ、みんな乗りたいということで乗船させてもらった。

小船にも乗ったことがない子供が多く、島に近づくと珍しそうに「あれ何？これ何？」と興味深く質問をする子、「じいちゃんと魚釣りに行って、何匹も釣ったよ」と自慢げに話す子、何回説明しても「どうして魚は見えないの？」と言う子、色々な会話が飛び交い、楽しい出来事となった。

振り返ると、私達が子供の頃は、近くに浜辺があり、小船がいっぱい浮かんで、そこで泳いだり、貝堀をしたりと、海に関する楽しい思い出が沢山あった。今の子供達は、海は近くにあるが、船に乗ったり、魚や海に接する機会が少なく、この日の体験は、子供達にとっても、私達にとっても良い経験となった。

この経験を基に、昨年から町が子育て支援の一環として4年前から実施している合宿通学に、私達女性部もお手伝いさせて欲しいと申し出て、協力させてもらっている。

合宿通学とは、少子化により兄弟がいない子、地区で遊ぶ仲間がいなくて友達は学校の同級生だけという子供達に短い期間でも集団で生活して、年齢を越えて仲良くなってもらいたいと、小学生を対象に公民館を利用して二泊三日で行われている。

その中で、私達は、魚を身近に感じてもらおうと、魚の料理教室を開催しており、今年は、かつおの刺身、かつおのハンバーグに挑戦してもらった。初めて魚本来の姿を見る子供もいて、「これがかつお？」と言葉を交わす中、肉ばかりでなく、魚でもハンバーグが出来るのだと面白そうにまな板の上で魚をトントンとたたき手も弾み、味付けも子供達だけで話し合いながら決めていった。自分達で作った料理を美味しそうに食べる姿を見ると、料理教室を開いてよかったと実感する。

その他、10年前から夏休みにはスケッチ大会を開催している。女性連で実施している「子供をみつめる日作品展」に、当時、外浦では応募が少なかったため、地元の小学校にお願いに行くほか地区でもスケッチ大会を開催しようと始めたのである。こちらも少子化により参加する子供の数は減ってきているが、子供達は、学校でしか会えない友達に、夏休みも会えると心待ちにしており、海への関心、漁業への関心を深めてもらうためにも今後も続けていかなければならない行事の一つだと思っている。

6. 波及効果

グランドゴルフを始めるようになって7年になる。屋外でする行事なので当日は天候が気になるが、天候が悪い日は室内のレクリエーションに切り替え、参加者は毎回100名を超えており、地域の恒例行事となっている。

参加される子供には、まだ、グランドゴルフが出来ない小さいお子さんもいるので、今では、その子達にも楽しんでもらおうと、紙芝居をやるようにした。また、かけっこが好きな子供達のために、50m競走を取り入れたが、その応援に親を始めとする大人達は大盛り上がりで、大人の参加も増え、かけっこが一つのメインとなっている。

グランドゴルフ、合宿通学、スケッチ大会と女性部活動を通して、子供とのふれあいはもちろん、最近では子供について来る親、祖父母、地域の人々の参加が増え、その方達との交流が生まれ、結びつきが強くなってきていると感じている。

7. 今後の課題や計画と問題点

昨今、少年犯罪の多発と低年齢化が目立ってきている。同時に子供が被害者となる痛ましい事件も後を絶たない。核家族化、少子化、ストレス社会等々、様々な要因はあると思うが、昔から変わらない大切なことは、大人が常に子供を見ていかななくてはならないという事ではないだろうか。沢山の大人に見守られる事によって子供の日常生活における危険度は減ると思うし、大人に見守られて育った子供は、立派に育つと信じている。

少子・高齢社会の現在、地域で子供をみつめていくことは、これから益々重要になってくると思う。私達の行っている女性部活動が、子育て支援の場、食育の場、地域の人々との交流の場となり、子供とのふれあい、地域の人々との結びつき、つながりをより強化できたらと考えている。

そして、高齢者との結びつきとして、漁協には「年金友の会」という年金受給者でつくる会があるので、この会と合同で「子供をみつめる日」の行事を計画し、実行したいと考えている。海の上で働いてきた方々からのお話や交流を通して、お年寄りとのふれあい、漁業への興味を持ってもらい、後継者問題に何らかの連携がとれれば、また高齢者の活躍の場ともなればと考えているところである。

このように、これからも女性部活動を通して、地域の子供達をみつめていきたい。そして、漁村のより所である漁協を地域を盛り上げていきたいと思っている。

「子供をみつめる日」特別行事実施状況

年度	開催日	場所	実施内容	参加者
平成11年度	4月29日	ハートフルセンター ふれあい広場	グラウンドゴルフ、宝探し	132名(子供65名、大人67名)
平成12年度	4月29日	ハートフルセンター ふれあい広場	グラウンドゴルフ、宝探し	130名(子供58名、大人72名)
平成13年度	4月29日	漁協2階大会議室	室内レクリエーション(紙芝居、椅子 とりゲーム、ビンゴなど)	125名(子供56名、大人69名)
平成14年度	4月29日	漁協2階大会議室	室内レクリエーション(紙芝居、椅子 とりゲーム、ビンゴなど)	113名(子供58名、大人55名)
平成15年度	5月10日	ハートフルセンター ふれあい広場	グラウンドゴルフ、宝探し	122名(子供60名、大人62名)
平成16年度	5月8日	ハートフルセンター ふれあい広場	グラウンドゴルフ、宝探し、紙芝居、 50m競走	105名(子供55名、大人50名)
平成17年度	5月14日	ハートフルセンター ふれあい広場	グラウンドゴルフ、宝探し、紙芝居、 50m競走	112名(子供51名、大人61名)